

お買い上げいただき誠にありがとうございます。本書の記述に間違いがございました。謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに訂正申し上げます。また、執筆者の先生方より本文の修正・追加のご依頼がありました箇所も、併せて掲載させていただきます。

(最終更新日：2018年11月5日)

P8 表 2.0.1 下から 6 行目

誤：Rh-associated glycoprotei

正：Rh-associated **glycoprotein**

P8 表 2.0.1 表の下

誤：ISBT：International Societty of Blood Transfusion

正：ISBT：International **Society** of Blood Transfusion

P10 図 2.1.2 図中文字

原文：A 転移酵素 B 転移酵素

修正：A **糖**転移酵素 B **糖**転移酵素

P10 右段 10～11 行目

原文：*FUT2*がコードする転移酵素

修正：*FUT2*がコードする**糖**転移酵素

P35 2つ目の Q の 1 行目

誤：回転半径 (rcm)

正：回転半径 (**cm**)

P37 3.3.2 項 左段 1 行目

誤：1) 検体：p22, 3.1.1 参照

正：1) 検体：p**23**, 3.1.**2** 参照

P37 ページ下部の用語欄 2 行目 アルブミン-間接抗グロブリン試験

誤：albumin-enhanced indirect antiglobulin test ; ALB-IAT

正：**albumin indirect** antiglobulin test ; ALB-IAT

P39 2つ目のQの6行目

誤：p40, 表 3.4.2 参照

正：p42, 表 3.4.2 参照

P43 左段下から5行目

誤：P₁

正：P₁

P46 左段下から3~2行目

原文：消去法により，抗 E と抗 Fy^bが“可能性の高い抗体”と推定される。

修正：反応パターンより抗 Fy^bが“可能性の高い抗体”と推定され，消去法により抗 E が“否定できない抗体”と推定される。

P46 右段上から1行目

誤：すると抗 Fy^bについては p=0.024 となり

正：すると抗 Fy^bについては p=0.005 となり

P46 右段上から5行目末尾に追加

追加：～統計学的にはいえない（図 3.4.8c）。抗 Fy^bの反応パターンに隠れた抗 E の証明には“パネル赤血球の追加”や“吸着解離試験”が必要となる（p42「2. 追加すべき検査」を参照）。

P46 表 3.4.8 上表 Fy^bの行 Cell No.3

誤： 0

正： +

Cell.No	D	C	E	e	e	K	k	Fy ^a	Fy ^b	Jk ^a	Jk ^b	IAT
1	*	*	0	0	*	*	*	*	0	*	0	0
2	*	*	0	0	*	0	*	*	0	*	0	0
3	+	0	+	+	0	0	+	+	0	+	0	3+
4	0	0	0	*	*	*	*	*	0	0	*	0
5	0	0	+	+	+	0	+	+	+	+	+	3+
6	+	0	+	+	0	+	0	+	+	0	+	3+
7	0	0	0	+	+	+	0	0	+	+	0	2+
8	+	+	0	0	+	+	0	+	+	0	+	1+
9	+	+	0	+	+	0	+	+	+	+	0	1+
10	0	0	0	*	*	0	*	*	0	0	*	0
Auto												0

Cell No.	D	C	E	e	e	K	k	Fy ^a	Fy ^b	Jk ^a	Jk ^b	IAT
1	*	*	0	0	*	*	*	*	0	*	0	0
2	*	*	0	0	*	0	*	*	0	*	0	0
3	+	0	+	+	0	0	+	+	+	+	0	3+
4	0	0	0	*	*	*	*	*	0	0	*	0
5	0	0	+	+	+	0	+	+	+	+	+	3+
6	+	0	+	+	0	+	0	+	+	0	+	3+
7	0	0	0	+	+	+	0	0	+	+	0	2+
8	+	+	0	0	+	+	0	+	+	0	+	1+
9	+	+	0	+	+	0	+	+	+	+	0	1+
10	0	0	0	*	*	0	*	*	0	0	*	0
Auto												0

P46 表 3.4.8 左下表

誤：

抗体名：抗 Fy^b $p=0.024$

反応結果	パネル赤血球		
	抗原 (+)	抗原 (-)	Total
陽性	5	1	6
陰性	0	4	4
Total	5	5	10

正：

抗体名：抗 Fy^b $p=0.005$

反応結果	パネル赤血球		
	抗原 (+)	抗原 (-)	Total
陽性	6	0	6
陰性	0	4	4
Total	6	4	10

P57 右段 「4. コンピュータークロスマッチの条件」の2行目

原文：完全に満たすことが必要である。

追加：完全に満たすことが必要である³⁾。

P58 2つ目のQのA

原文：残念ながらコンピュータークロスマッチは、保険請求できない。

修正：平成 30 年の診療報酬改定により、「輸血療法の実施に関する指針」(改訂版)(平成 26 年 11 月)を遵守してコンピュータークロスマッチを実施した場合はコンピュータークロスマッチ加算が算定できる。ただし、血液交差試験加算及び間接クームス検査加算は算定できない。

コンピュータークロスマッチ加算；1 回につき 30 点

P59 4章 SUMMARY 6行目

誤：比重勾配遠心法

正：比重勾配分離法

P67 5章 SUMMARY 下から2行目

誤：フローサイトメーター

正：フローサイトメトリー

P73 図 5.1.6 手順⑬

原文：反応強度 1+を示す最大希釈倍数を糖転移酵素活性とする。

修正：凝集が認められる最高希釈倍数を糖転移酵素活性の Titer 値とする。

P107 ページ下部の用語欄に追加

追加：アリル (アレルともいう；allele)

P109 表 6.2.3 C の列すべて

原文 : Cw*

C
Cw*12:02
Cw*14:03
Cw*01:02
Cw*07:02
Cw*01:02
Cw*07:02
Cw*03:04
Cw*04:01

修正 : C*

C
C*12:02
C*14:03
C*01:02
C*07:02
C*01:02
C*07:02
C*03:04
C*04:01

P111 ページ下部の用語欄 2 行目

誤 : KSP (Karnofsky performance score)

正 : **KPS** (Karnofsky performance score)

P139 8 章 SUMMARY 下から 4 行目

誤 : 児が A, B, AB 型の組み合わせ

正 : 児が **A, B 型**の組み合わせ

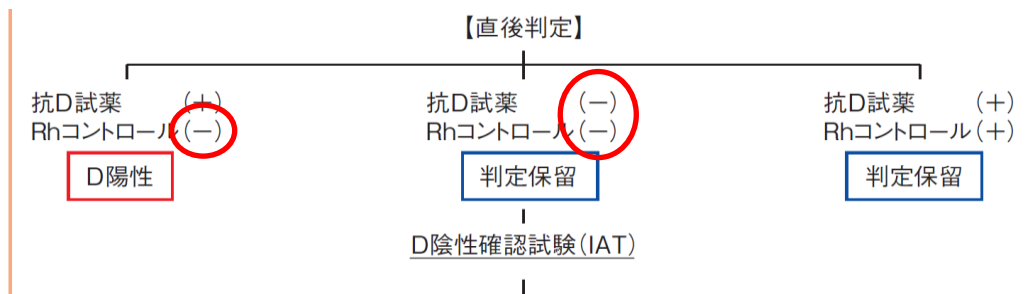
P154 左段【考え方】の 6~7 行目

原文 : 各種亜型試験を行う。

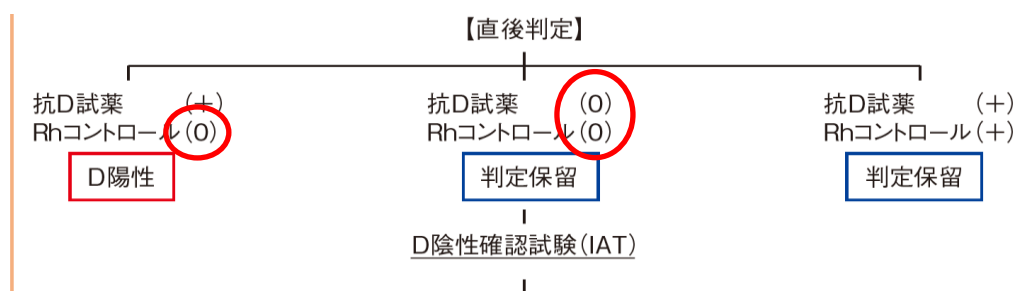
修正 : 各種亜型**検査**を行う。

P167 図 10.2.1 中ほど【直後判定】

誤 :

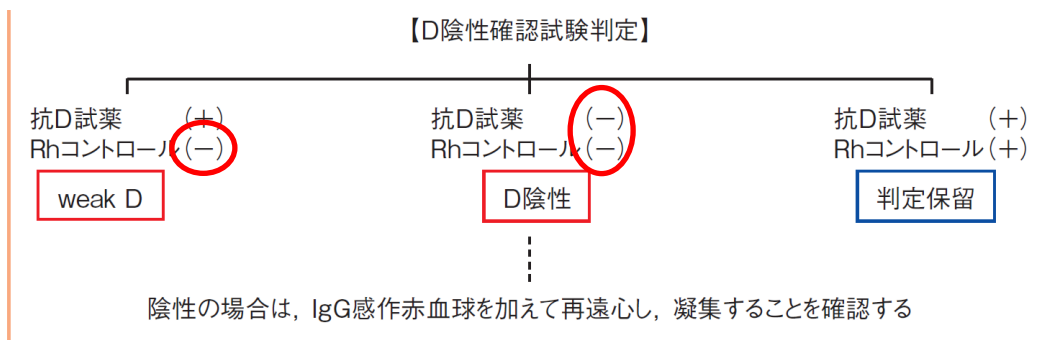


正 :

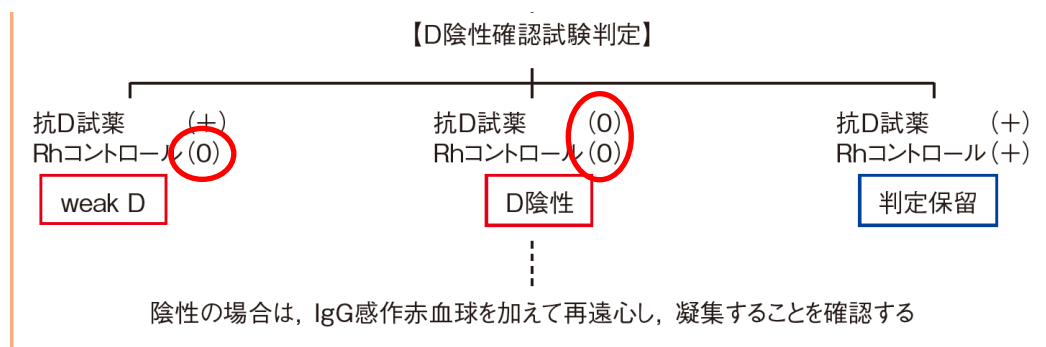


P167 図 10.2.1 下寄り【D 陰性確認試験判定】

誤：



正：



P168 左段「2. 結果の解釈」の(1)D 陽性

誤：直後判定において、抗 D 試薬(+), Rh コントロール(-)の場合は D 陽性と判定する

正：直後判定において、抗 D 試薬(+), Rh コントロール(0)の場合は D 陽性と判定する

P168 左段「2. 結果の解釈」の(2)D 陰性

誤：D 陰性確認試験において、抗 D 試薬(-), Rh コントロール(-)の場合は D 陽性と判定する

正：D 陰性確認試験において、抗 D 試薬(0), Rh コントロール(0)の場合は D 陰性と判定する

P168 左段「2. 結果の解釈」の(3)weak D

誤：直後判定が抗 D 試薬(-), Rh コントロール(-)で、D 陰性確認試験において、抗 D 試薬(+), Rh コントロール(-)の場合は weak D と判定する

正：直後判定が抗 D 試薬(0), Rh コントロール(0)で、D 陰性確認試験において、抗 D 試薬(+), Rh コントロール(0)の場合は weak D と判定する

P171 「ここがポイント」 3行目 (カンマを挿入)

原文：“量的効果”を示す Rh, Kidd, Duffy や Diego などの血液型に対する抗体

修正：“量的効果”を示す Rh, Kidd, Duffy や, Diego などの血液型に対する抗体

P175 10.5.1 項見出し

原文：出生前の検査（母親の検査）

修正：**出産前**の検査（母親の検査）

P176 右段上から 2行目

原文：ABO 不適合妊娠が疑われる場合には、患児の血漿（血清）を用いて IAT を行い

追加：ABO 不適合妊娠が疑われる場合には、**ウラ検査用赤血球試薬**と患児の血漿（血清）を用いて IAT を行い

P181 左段上から 2行目

誤：方法については p88, 5.3.3.および p90, 5.3.4 参照

正：方法については **p87**, 5.3.3.および p90, 5.3.4 参照

P212 「1. はじめに」の 6行目

原文：ことが求められている。

追加：ことが求められている ¹⁾。

P212 「2. 血液製剤と関連法」の 8行目

原文：法律（血液法）」となった。

追加：法律（血液法）」となった ²⁾。

P212 右段上から 9行目

原文：受けることが推奨されている。

追加：受けることが推奨されている ³⁾。

P215 左段「①血小板洗浄・置換液 (M-sol)」の 6行目

原文：調整法が改変され記されている。

追加：調整法が改変され記されている ⁴⁾。

P215 左段「③アルセパー液」の 8行目

原文：添加されていることがある。

追加：添加されていることがある ⁵⁾。

P216 左段 (3)①濃厚血小板-LR「日赤」(販売明)の8行目

原文：製剤が用意されている。

追加：製剤が用意されている⁶⁾。

P217 表下の出典

原文：～.pdfを改変)

追加：～.pdfを改変)⁷⁾

P218 「1. はじめに」の4行目

原文：則した管理が必要である。

追加：則した管理が必要である⁸⁾。

P219 表 12.2.5

原文：

	50本プール (2000.2～)	20本プール (2004.8～)	個別 (2014.8～)
HBV	46日	44日	34日
HCV	24.8日	24.5日	23日
HIV	14日	13.5日	11日

(厚生労働省HP <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11121000-lyakushokuhinkyoku-Soumuka/0000049944.pdf> より)

修正：「個別」を2つに分け、「2017.11～」の列を追加

	50本プール (2000.2～)	20本プール (2004.8～)	個別 (2014.8～ 2017.10)	個別 (2017.11～)
HBV	46日	44日	34日	21日
HCV	24.8日	24.5日	23日	3～5日
HIV	14日	13.5日	11日	5日

遡及調査ガイドラインの改訂に伴い個別 NAT の推定ウィンドウ期が 2017 年 11 月より変更された¹²⁾。

P222 左段上から 11 行目

原文：日本赤十字社の献血基準を示す

追加：日本赤十字社の献血基準を示す⁹⁾

P223 12.2.5 「1. はじめに」の5行目

原文：が必要である。

追加：が必要である¹⁰⁾。

P224 「2. 自己血輸血の種類」の13行目

原文：12月2日)や

追加：12月2日)¹¹⁾や

P226 参考文献 番号変更と追加

文献番号変更：4)⇒6)

文献番号変更：5)⇒8)

文献番号変更：6)⇒4)

文献番号変更：7)⇒11)

文献番号変更：8)⇒9)

文献番号変更：9)⇒7)

文献番号変更：10)⇒5)

文献番号変更：11)⇒10)

文献追加 : 12) 日本赤十字社：「輸血用血液等の遡及調査に関するガイドライン」(日赤 GL)の改訂について、2017年10月。 http://www.jrc.or.jp/mr/product/information/pdf/info_H2910.pdf

※変更後

参考文献

- 1) 厚生労働省：「輸血療法の実施に関する指針(改定版)および血液製剤の使用指針」(2014年11月一部改正), 2014. <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11120000-Iyakushokuhinkyoku10000065576.pdf>.
- 2) 厚生労働省：「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(2003年7月, 最終改正2015年7月), 2015. <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/3b.html>.
- 3) 厚生労働省：「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン(2014年7月一部改正)」, 2014. http://mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/dl/140814_02a.pdf.
- 4) 日本輸血・細胞治療学会：「洗浄・置換血小板の適応およびその調製の指針 (Version IV)」, 2013. <http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/themes/jstmct/images/medical/file/guidelines/Ref9-1-150127.pdf>.
- 5) 窪田哲朗, 加藤亮二：臨床検査学講座 免疫検査学, 医歯薬出版, 2008.
- 6) 日本輸血・細胞治療学会 輸血後GVHD対策小委員会：「輸血によるGVHD予防のための血液に対する放射線照射ガイドラインV」, 2010. <http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/themes/jstmct/images/medical/file/guidelines/Ref8-2.pdf>.
- 7) 日本赤十字社 北海道ブロック血液センター・北海道赤十字血液センター HP <http://www.hokkaido.bc.jrc.or.jp>.
- 8) 血液製剤調査機構血液製剤保管管理マニュアル作成小委員会：「血液製剤保管管理マニュアル」, 1993. <http://bpro.or.jp/publication/ex.html>.
- 9) 日本赤十字社 HP <http://www.jrc.or.jp>.
- 10) 日本輸血・細胞治療学会：日本輸血・細胞治療学会 認定医制度指定カリキュラム, 2012.
- 11) 厚生省業務局：「自己血輸血：採血及び保管管理マニュアル」(1994年12月), 1994.
- 12) 日本赤十字社：「輸血用血液等の遡及調査に関するガイドライン」(日赤 GL)の改訂について、2017年10月。 http://www.jrc.or.jp/mr/product/information/pdf/info_H2910.pdf.

P231 表 13.2.3

原文：

赤十字血液センターにおける 対応と検査開始時期	50 プール NAT 2000 年 2 月～	20 プール NAT 2004 年 8 月～	個別 NAT 2014 年 8 月～	Schreiber の報告した 血清学的検査における WP の平均値 ³⁾	輸血後に実施する検査時期と項目
HBV	46 日	44 日	34日	59(37～87)日	3 カ月後に NAT
HCV	24.8日	24.5日	23日	82(54～192)日	1～3 カ月後に HCV コア抗原
HIV	14 日	13.5日	11日	22(6～38)日	2, 3 カ月後に HIV 抗体

修正：

赤十字血液センターにおける 対応と検査開始時期	50 プール NAT 2000 年 2 月～	20 プール NAT 2004 年 8 月～	個別 NAT 2014年8月 ～2017年10月	個別 NAT 2017 年 11 月～ ³⁾	輸血後に実施する検査時期と項目
HBV	46 日	44 日	34日	21日	3 カ月後に NAT
HCV	24.8日	24.5日	23日	3～5 日	1～3 カ月後に HCV コア抗原
HIV	14 日	13.5日	11日	5 日	2, 3 カ月後に HIV 抗体

P231 参考文献 3)

原文：3) Schreiber GB et al . : The risk of transfusion-transmitted viral infection. The Retrovirus Epidemiology Donor Study, N Engl J Med 1996 ; 334 : 1685-1690.

修正：3) 日本赤十字社：「輸血用血液等の遡及調査に関するガイドライン」（日赤 GL）の改訂について，2017 年 10 月．http://www.jrc.or.jp/mr/product/information/pdf/info_H2910.pdf.

P255 Q&A の枠下に注釈追加

追加：*2018 年（平成 30 年）1 月より，輸血副作用・感染症における調査方法が変更されました。

P257 右段(3)「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律の施行について」

原文：2003 年 7 月 24 日 薬食発第 0724008 号 各都道府県知事あて厚生労働省医薬食品局長通知（最終改正：2015 年 3 月 26 日 厚生労働省令第 42 号）

目次

- 第 1 法第 1 章 総則関係
- 第 2 法第 2 章 基本方針等関係
- 第 3 法第 3 章 採血関係
- 第 4 法第 4 章 血液製剤の安定供給関係
- 第 5 法第 6 章 罰則関係
- 第 6 既存の通知の改廃について
- 第 7 その他

修正：2003年7月24日 薬食発第0724008号 各都道府県知事あて厚生労働省医薬食品
局長通知（最終改正：2015年3月26日 厚生労働省令第42号）

<https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/3a.html>

目次

第1章 総則（第一条-第八条）

第2章 基本方針等（第九条-第十一条）

第3章 採血（第十二条-第二十四条）

第4章 血液製剤の安定供給（第二十五条-第二十七条）

第5章 雑則（第二十八条-第三十一条）

第6章 罰則（第三十二条-第三十九条）

附則

P257 右段(5)「赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン（改訂2版）」 URL

原文：<http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/uploads/2016/10/4aa47f2fc042d7a5eef0bfbfd9034088b1.pdf>

修正：<http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/uploads/2016/10/5bc721e299263f6d44e2215cbdfbfaf.pdf>

P258 左段(8)「輸血によるGVHD予防のための血液に対する放射線照射ガイドライン」 URL

原文：<http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/themes/jstmct/images/medical/file/guidelines/Ref8-1.pdf>

修正：<http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/themes/jstmct/images/medical/file/guidelines/Ref8-2.pdf>

P258 左段(10)「産科危機的出血への対応ガイドライン」 URL

原文：<http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/themes/jstmct/images/medical/file/guidelines/Ref5-1.pdf>

修正：<http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/themes/jstmct/images/medical/file/guidelines/Ref5-2.pdf>

P258 左段(13)

原文：**(13)「洗浄・置換血小板の適応およびその調製の指針（Version IV）」**

2008年2月1日初版 2014年10月17日改訂 日本輸血・細胞治療学会

http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/themes/jstmct/images/medical/file/guidelines/Ref9-1-150127_150604.pdf

修正：(13)「洗浄・置換血小板の適応およびその調製の指針 (Version V)」
2008年2月1日初版 2016年4月27日改定 日本輸血・細胞治療学会
<http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/uploads/2016/05/96cdc072ad4370a5c012729b39e465cb.pdf>

P258 右段(14)

原文：(14)「輸血のための検査マニュアル Ver 1.3」
2016年3月10日 日本輸血・細胞治療学会，輸血検査技術講習委員会
<http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/uploads/2016/02/9d8aed853270259b887cb15a4be300a.pdf>

修正：(14)「輸血のための検査マニュアル Ver 1.3.1」
2017年2月13日改定 日本輸血・細胞治療学会，輸血検査技術講習委員会
<http://yuketsu.jstmct.or.jp/wp-content/uploads/2017/02/9e95505098a34391cfa7151af59b6e89.pdf>

P258 右段(15)「初級者研修会のための実技テキスト Ver 1.2」

修正：(15) 全体を削除

P258 右段(16)「輸血副反応ガイド」

修正：(16) 全体を削除

P258 右段 2. 関連ホームページ(1)

原文：(1) 血液製剤調査機構
<http://www.bpro.or.jp/>

修正：(1) 一般社団法人日本血液製剤機構
<http://www.jbpo.or.jp/>

P258 右段 2. 関連ホームページ(7)

原文：(7) 骨髄移植推進財団
<http://www.causeribbon.or.jp/npongo/jmdp/>

修正：(7) 日本骨髄バンク
<http://www.jmdp.or.jp/>

P262 右段(3)の下から 2 行目

誤： (+) と (-) を置き換えることにより

正： (+) と (0) を置き換えることにより

P264 略語一覽 左段 ALB-IAT

誤：albumin-enhanced indirect antiglobulin test

正：albumin indirect antiglobulin test

P265 略語一覽 右段 KSP

誤：KSP Karnofsky performance score

正：KPS Karnofsky performance score

P266 略語一覽 右段 RBC

誤：red blood cell

正：red blood cells

P267 略語一覽 左段 TNF- α

誤：腫瘍壊死因子

正：腫瘍壊死因子 α

お買い上げいただき誠にありがとうございます。本書の記述に間違いがございました。謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに訂正申し上げます。

また、執筆者より本文修正のご依頼がありましたので、併せて掲載させていただきます。

(最終更新日：2016年6月7日)

p12 表 2.1.7 4 段目

誤：Le (a-b) 遺伝子 *Le*

正：Le (a-b) 遺伝子 *lele*

p17 右段 28 行目

誤：また、発作性夜間血色素尿症（発作性夜間ヘモグロビン尿症）（PNH）患者に見られるドナーT-ランドシュタイナー（D-L）抗体～

正：また、**発作性寒冷血色素尿症（発作性寒冷ヘモグロビン尿症）（PCH）** 患者に見られるドナーT-ランドシュタイナー（D-L）抗体～

p17 ページ下部・用語一覧

誤：発作性夜間血色素尿症（発作性夜間ヘモグロビン尿症）（paroxysmal nocturnal hemoglobinuria ; PNH）

正：**発作性寒冷血色素尿症（発作性寒冷ヘモグロビン尿症）（paroxysmal cold hemoglobinuria ; PCH）**

p22 ページ下部・用語一覧

誤：国民保険サービス（National Health Service ; NHS）

正：国民保険サービス（National Health Service ; NHS）

p24, p60, p237 ページ下部・用語一覧,

誤：低イオン強度溶液（low-ionic-strength solution ; LISS）

正：低イオン強度溶液（low-**ionic**-strength solution ; LISS）

p32 3.2.5 スライド法による ABO, RhD 血液型検査 (1) 赤血球の洗浄操作

原文：赤血球濃度は添付文書に従う。（目安として 20%程度）。

修正：赤血球**浮遊液**の濃度は、試薬の添付文書に従う。

p32 3.2.5 スライド法による ABO, RhD 血液型検査 ●2.RhD 血液型検査

原文：検体は、全血（凝固血，抗凝固血）または 40～50 %患者赤血球浮遊液を用いる。

修正：検査には、全血（凝固血，抗凝固血）または赤血球浮遊液が用いられる。赤血球浮遊液の濃度は、試薬の添付文書に従う。

p37, p62 ページ下部・用語一覧

誤：low-ionic-strength solution-indirect antiglobulin test ; LISS-IAT

正：low-ionic-strength solution-indirect antiglobulin test ; LISS-IAT

p46 Q&A

誤：②パネル赤血球の反応パターンから“否定できない抗体”の特異性を推定する。

③除去法を実施して，“可能性の高い抗体”以外の特異性についても検討する。

正：②パネル赤血球の反応パターンから“可能性の高い抗体”の特異性を推定する。

③除去法を実施して，“否定できない抗体”の特異性についても検討する。

p77 5.2 抗体価測定 ここがポイント！ 3行目

原文：検査にはヘテロ接合体の赤血球を用いる。

修正：検査にはホモまたはヘテロ接合体の当該抗原陽性赤血球を適宜選択することが望ましいが、症例ごとに同一条件で検査することが最も重要である。

（内容が重複するため、ここがポイント！1行目を削除し、上記修正文を1行目とする。）

p77 ●2.抗体価測定方法 2)試薬

原文：・当該抗原陽性赤血球（ABO 以外の血液型抗原はヘテロ接合体の赤血球を使用）

修正：・当該抗原陽性赤血球（ABO 以外の血液型抗原は、妊娠、輸血や移植など被検者の臨床状況を考慮し、ホモまたはヘテロ接合体の赤血球を適宜選択する。ただし、適当な赤血球の入手が困難な施設においては、症例ごとに同一条件で検査できる表現型を定めておく³⁾）。

p78 ●3.注意点 右段 8行目

原文：・検査に用いる赤血球試薬は、原則として当該抗原がヘテロ接合体の赤血球を用いる。

修正：・原則として、妊婦では当該抗原が児と同じヘテロ接合体の赤血球を用いる（p147, 9.1.3 参照）。また、量的効果を示す抗原に対する抗体を保有する輸血患者や移植患者にはホモ接合体の赤血球が望ましい。

・抗体価測定にホモ接合の赤血球を用いた場合、量的効果を示す抗原に対する抗体ではヘテロ接合体の赤血球よりも高値となる場合があることに注意する。

- ・妊婦の抗 D 抗体価測定には R1r (D+C+c+E-e+) 赤血球が望ましいが、入手が容易な R2R2 (D+C-c+E+e-) 等でも代用できる³⁾。
- ・ただし、抗体価をモニタリングする際は、原則として同じ表現型の赤血球を用いて実施する³⁾。

p78 ●3.注意点 右段 12 行目 追加

- ・抗体価を記録する際は、検査に用いた表現型も併記する。
[例 妊婦の抗 E 抗体価：32 倍 (R1R2 または D+C+c+E+e+)，輸血患者の抗 E 抗体価：32 倍 (R2R2 または D+C-c+E+e-)]

p79 参考文献 追加

3) Klein HG, Anstee D J : “Method 5-3. Using antibody titration studies to assist in early detection of hemolytic disease of the fetus and newborn”, Mollison’ s Blood Transfusion in Clinical Medicine 12th ed,499-541, Wiley Blackwell, 2014.

p129 右段 14 行目

誤：～ことから、R-フェイスクリン (R-PE) 標識抗ヒト IgG で～
正：～ことから、R-フィコエリスリン (R-PE) 標識抗ヒト IgG で～

p154 右段 1 行目

誤：抗 B 吸着解離試験 (検査方法詳細は p68, 5.1.1 参照)
正：抗 B 吸着解離試験 (検査方法詳細は p70, 5.1.3 参照)

p160 右段 4 行目

誤：比重勾配分離法 (p59, 4 参照)
正：糖密度勾配法 (参考文献：日本臨床衛生検査技師会：輸血検査の実際(改訂第 3 版), 32-34, 日本臨床衛生検査技師会, 2002.)

p177 Q.カリウム吸着フィルターとは？ 6 行目

誤：～避けるため、次のような方法が用いられる⁵⁾。
正：～避けるため、次のような方法が用いられる。

p217 表 12.2.3 3～5 段目

誤：新鮮凍結血漿 貯法 -20℃

正：新鮮凍結血漿 貯法 -20℃以下

修正：

(日本赤十字社 北海道ブロック血液センター・北海道赤十字血液センターHP
(<http://www.hokkaido.bc.jrc.or.jp/hotnews/files/00000100/00000144/20150330174342.pdf>) を改変)

p242 執筆者名

誤：[片井明子]

正：[片井明子・加藤栄史]

p264 略語一覧

誤：AIDS acquired immune deficiency syndrome

正：AIDS a**c**quired immune deficiency syndrome

p265 略語一覧

誤：LISS low-inonic-strength solution

正：LISS low-**ionic**-strength solution

p266 略語一覧

誤：LISS-IAT low-inonic-strength solution-indirect antiglobulin test

正：LISS-IAT low- **ionic** -strength solution-indirect antiglobulin test

誤：NHS National Helth Service

正：NHS National He**al**th Service

p273 索引

誤：薬剤起因性免疫性溶血性貧血・・・161, 162

正：薬剤起因性免疫性溶血性貧血・・・1**82**, 1**83**

***1 刷正誤表 更新履歴**

Ver1.01 (2016年2月12日)

p129 右段14行目の語句, p242 執筆者名の訂正を追加。

Ver1.02 (2016年3月31日)

p17 右段28行目と用語一覧の語句の訂正を追加。

p24, p37, p60, p62, p237 用語一覧, p265, p266 略語一覧に下記の訂正を追加。

イオン(inonic → ionic)。

Ver1.03 (2016年6月1日)

p32, p77~79 執筆者修正を追加。

p154, p160, p177, p217 訂正を追加。

Ver1.04 (2016年6月7日)

p177 表10.5.1の訂正を削除。

p177Q&A, p273の訂正を追加